

# 今こそ職場から総反撃し

## 反転攻勢をかちとろう

国労は、九月二日より四日間、東京九段会館において第五一回全国定期大会を開催した。修善寺臨時大会での労使共同宣言を拒否した「歴史的勝利」より一年、国労は何ら有効な反撃方針を出しえないまま、一般組合員を差別・選別、強制出向、配転の嵐にさらし、鉄産労の分裂等により組織人員も三分の一にまで激減するという事態に直面しながらも、なおかつ、四万人をこえる全組合員が「国労の旗」を守っている。われわれは、この国労組合員の不屈のたたかいを共に勝利するため「四・一分割・民営化」体制を粉砕する反撃のたたかいは先頭で担い、たたかう国労組合員との共闘、広範な統一戦線を強化・拡大するために全力でたたかわなければならない。

# ピラまきで国労組合員に訴え

組合員は不屈にたたかっている

分割・民営化攻撃が始まって以来七年、国鉄労働者はかつて経験したことのないすさまじい攻撃に、歯をくいしばってたたかいぬいてきた。とりわけ、国労組合員は、中央本部の無方針、後退のなかで、もろに攻撃の嵐にさらされてきたといえる。そのことは、五月以降の東日本の出向者四〇〇名中、国労組合員が七割を占めることを見ても明らかだ。

しかし、中央の無方針にもかかわらず、国労組合員はこの間、出向攻撃に対し、中央への指名ストの要求、すわり込み闘争、出向先への抗議闘争を地本、支部、分会、個人等々で独自に展開し、出向を打ち破りつつあるのだ。

怒りは充満し、組合員は  
たたかいを求めている

にもかかわらず、今回の全国大会においても鮮明な反撃方針を打ち出しえないままになっている。とりわけ、断じて許せないのは、日共・革同の屈服である。大会等では、いかにも「国労内で最もたたかっている」ようなポーズをとり、実のところ職場では、小集団活動を積極的に行い、差別・選別攻撃に完全にのっかってしまっているのがある。大阪では、革同の全国大会代議員が、当局

広報紙「JR近畿圏だより2号」に「うどん屋雑記帳」なる報告を掲載し、「JR西日本の経営方針で店長として、どう舵とりをしていくか」が問題などどぬけぬけといっている始末である。

共にたたかうことを全力で訴える

大会初日、動労千葉は国労共闘とともに、「出向攻撃粉砕、鉄道労連解体、ストライキでたたかう！」と全力で訴えてきた。動労千葉のまくピラは国労大会に参加した代議員・傍聴者の圧倒的な注目を集めた。動労千葉のピラを受けとれなかった参加者が、わざわざ会場の九段会館から出てきて、ピラを受けとりまた会場へ入るといふことさえあったのだ。また、昨年までの大会だったらピラの受け取りをつっぱねていた革同系の代議員も、動労千葉の圧倒的なたたかいの迫力の前に、ピラの受け取りを拒否できないうまにいたっている。

このことは、国労の組合員が鮮明なたたかいの方針を求め、動労千葉に期待をよせていることにも他ならない。いまこそ、職場から反撃を開始し、反転攻勢をかちとろう！  
「9・22青年部交流会」から、各支部上映会の早期実施と、10・11三里塚、動労千葉定期大会の成功を全力でかちとろう！

# 国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！ 国労中央の屈服・無方針をのりこえ 勝利を目指しともに闘おう

関川宰前委員長追悼集会云について  
日時 9月24日（木）13時より  
場所 千葉県労働者福祉センター大ホール